

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月 ~2日	1月 ~9日	1月 ~16日	1月 ~23日	1月 ~30日	2月 ~6日	2月 ~13日	2月 ~20日	2月 ~27日	3月 ~6日	3月 ~13日	3月 ~20日	3月 ~27日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	9	33	15	11	8	12	4	10	8	11	7	8 (12)	12
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	8	3	2	6	10	14	5	7	15	11	12	1 (3)	9
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	2	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	3	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	5	15	9	4	2	3	1	4	4	6	6	6 (8)	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	7	2	5	1	4	2	6	1	1	3	4	1 (2)	0
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	3	3

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第12週(3月21日~3月27日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	4	結核	4					3		1
三類	0	発生なし	0							
四類	0	発生なし	0							
五類	4	急性脳炎	1					1		
		水痘	1					1		
		梅毒	2					2		
新型インフルエンザ 等感染症	5,343	新型コロナウイルス感染症	5,343	537	442	457	41	2,469	394	1,003

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

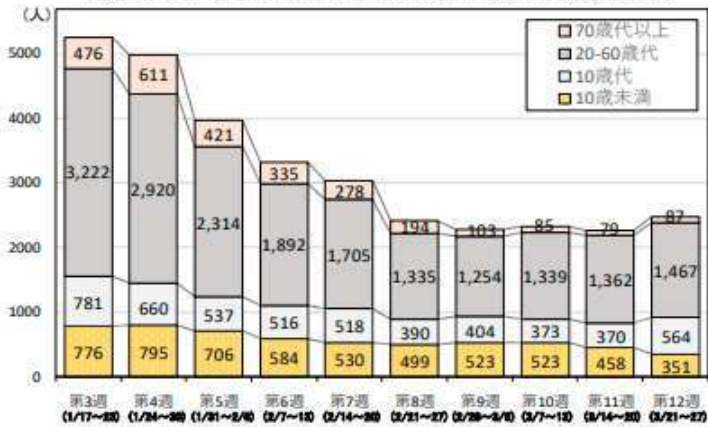
1 新型コロナウイルス感染症

第12週に2,469件の報告があり、新規感染者数は高い水準で推移しています。

新規感染者の総数は、第8週以降ほぼ横ばいで推移していますが、広島県のまん延防止等重点措置(令和4年1月9日～3月6日)が解除となった第10週以降で20～60歳代が増加しています。また、20歳未満の若年層においては、10歳未満は第11週から減少傾向が見られますが、一方で10歳代は第12週に大きく増加しました。

感染の再拡大を防止するため、基本的な感染防止対策に加え、出勤者の削減、体調不良時の早期受診、検査の積極的受検などの対策を徹底しましょう。また、年度末や年度初めは、会食の機会が増加します。会食の際には感染防止対策を徹底しましょう。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



2 梅毒

今年の累計は51件(昨年同時期10件)となり多い状況が続いています。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあるため、早期発見・早期治療が大切です。

【参考】保健センターの無料・匿名の梅毒検査(広島市) <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.htm>

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1.2以上の増減
												増減	微増減	
フィレン	インフルエンザ	-	-	2.46		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.12		急増減	↑	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
小児科	咽頭結膜熱	2	0.08	0.38		小児科	RSウイルス感染症	2	0.08	0.32		増減	↔	前週と比較しておおむね1.1~1.5の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.13	1.68		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		微増減	↕	前週と比較しておおむね1.1~1.5の増減
	感染性胃腸炎	62	2.58	5.15	↗	眼科	流行性角結膜炎	1	0.13	0.33		横ばい	→	ほとんど増減なし
	水痘	2	0.08	0.26		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-				
	手足口病	4	0.17	0.13			無菌性髄膜炎	-	-	-				
	伝染性紅斑	1	0.04	0.12			マイコプラズマ肺炎	-	-	-				
	突発性発しん	9	0.38	0.32			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-				
	ヘルパンギーナ	3	0.13	0.03		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	1.03					

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	23	70歳代・1人、80歳代・2人
5	急性脳炎	1	2	10歳未満
5	水痘(入院例に限る)	1	3	60歳代
5	梅毒	2	51	30歳代・2人